[illegible]蒼虬[illegible]句集　月

冬之部

十月や降るとも見えぬ松葉哉

十月や子路はまだ赤木槿

くれなゐの実も洛陽の冬ごもり

あるかなきかのよ妻の雑木山

蕭掃て所をはらはるかなる弘
松坂のあたりハ紀の浦なるに
玉ひけ物の多くなれハ
日も暮ぬやうにて小まの稲葉
相をもをすに猶の者ども小六月
持たる雪の嶺ふりはけて猶見
たるれハ沙竜も高嶺
峰まハりの菓のうへのたるれ

たるれ共年ハ波ぢの
菓年頃の松ふる敷もたるれ
稲垣の月をもとるも猶一ハれ
雪の年持たる水の月をそ神ふる
一十年ハ鶴もとるも猶時毎
年大の神ぞあけてを川時毎
おてを折菓をぬるも一時毎
ひとを岬を沙波て若ふるれ弘

一志ゝき寺すゝ時や山の雉子
杣りやうの山ゝ行あかしれ哀
石菓の徒る甲斐ある志れゝ哀
志ゝゝゝや清水細ち川むれ
時雨ゝや夏えゝゝる斧の音
しゝゝれ出るまゝて五位の色
物常もあてゝ八れ清ゝ月ゝ色
下京ゝ志ゝゝゝゝよ塔ゝゝゝ

斧の音ゝゝ知て色のゝゝゝか
東角ゝを新て色ゝ西ゝ成ゝれ
志ゝゝゝや一隅ゝく池の水
ゝ知ゝ枝の音時あのすゝれゝ
橋ゝ御ゝゝ枝の張ゝ志ゝゝ哀

二見ゝて二句

ゝゝゝ東の時ゝれ色ゝ橋ゝ花
作ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝの和れ

住居を定て八人を養ふ時日
この五衰その人年ゆり
夕山やく彩雲年翌の時毎を
食時文
砂清し時毎五月雨さ紀
屋を出して彩雲年毎に
乞せよ時毎も年一東山
市雲撮年紀して三郷を定

義忠年ちかく引籠の昔
を思ひ出て
某山のふる道をたどりかね
義忠
月時雨とともに尾の今式れ
ぬるかの水も来るこ時雨の樋
赤ちその志ちを用ある云式弘
掃よせて本の葉の塚とかる見

永云式宮の十表の陸の表
ふ仙やまく其年の夏句草
木発ち表を来てさやき義の日
ちのたち反月々枯樹をてる牛
ゆるつる紀市藤の上の木の志弘
同津の義忠年
安農の要ち年末の我葉を志義の日
義仲ちまて

けと去れ撫をめぐるを見る年
箱の日板を年ゆりて
葉仲秋の竹うるはしき花園
去年の箱忘れ未書年金
今年の家年常をとりて
十本の中樹年おく金武弘
毎つまて常あるる十板乗
年すきれや木の葉れちる家

をくしと株の涙見えて枝本のそ
走る年ゆる月板のこの屋弘
次くしと木の紅葉あり一年うれ
人くの中見るを涙て
去のまるれ出てゐる木の葉弘
数年真書を結えてを紙
庭のむらをしのふ
老年さ人生の一日一枝枝本のそ

山々の佳色霧中に紫紅
を呈せるおもしろ
弱の来てふるものゆゑ
木のしたゝり
風の日をけうり
きのふのゆめ
風も秋の来てふる
敦賀にて

きくの下に
夏山に吹る日和や大根引
赤畑の早下も
城ゝその大根ぬく山のそら
大根畑の月も天竺に
志賀にて
大根引志賀の人元の振袖
野ゝの家ゝ傾き枯残る

時めかせて来るを柘榴の花を
見れば春中の時花柘榴花
見除のうちて日の入る時の葉
新京にうつるもなるを柘榴の灯
所しかを落うるまるうまれ
物の色も一寸ち出来る時の花
はなて
ちりぬるの中まで広の夕れ

き作きを孔きて久し柘尾む
芝の月て深世を庵の雲
ひと林樹うてうう冬木立
小夜の月はを深なる枝
を曳て玉枕あるうを超ふ
ちうのうて祈祷の冬木立
うと孔雀や冬をさうは菓のを
幸祈くの夕や傍のうもうう

寒菊や摘て来る葉のほこり
こからしや衣ハもみぢ紙子かな
晴しき月夜も見る石蕗の花
草むらのちりハ見えず霜どけ
見ヶ代の松風添ぬ冬牡丹
公 氷の雑波に下括りしるとき
寄のりき植振や冬の菊付
水仙の名ゆかしき月夜哉

水仙や背戸ハ月夜の水たまり
水仙や窗の手ます日のゆるさ
水仙や田へ行水のゆるき垣根
山茶花を挿ときく草枕
留守めりつ山茶花も折手ならう
沢庵の交見えて納豆汁
道坂を雪踏て手すや障子薄
給朱の松風吹て冬ぬ里

[illegible]年つもりて冬ごもり
[illegible]ものあるゝ火鉢を
[illegible]孔子[illegible]
上京[illegible]人多き[illegible]
紙衾梅[illegible]
[illegible]
[illegible]の夕[illegible]
[illegible]東の[illegible]を写[illegible]
[illegible]義[illegible]

丹後の内宮[illegible]
[illegible]の日[illegible]
腰越[illegible]
[illegible]を振る[illegible]
[illegible]の小松の[illegible]
[illegible]の九太[illegible]
水[illegible]二日　月
越中の[illegible]布勢の海[illegible]

こゝへて
あるもとのいひ船を市野の海
をくまかそへる地乃小鴨奈
夕ぐれのてるを義振の作なる鴨
吸水の波をけり小鴨哉
政略は年寄る日和奈
す鶏や日くれさるの時の暑う
何船のゝら出て来て無ふ小鴨哉

[illegible]川より[illegible]て来て鴨の足
枝すゝの花つゝ咲る 芳
あゝ海や別て年毛なるの表ら吟西
松のゝ年乃貯ら新ちゝ
西年月毛島吟るよ紀表
ゝ明ゝら面見るゝ毛ゝ
川上ゝ師ゝなて帰ちゝ
きはまりて乃よまるゝ 川衡

[illegible]年八月[illegible]月[illegible]て[illegible]ハ[illegible]
あ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ん[illegible]て[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
常[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
あ[illegible]の[illegible]

[illegible]ハ長崎ハ大[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の分八月[illegible]花[illegible]人の
[illegible]て
[illegible]の[illegible]
夢[illegible]ハ[illegible]
[illegible]日[illegible]て[illegible]
[illegible]雪[illegible]ハ[illegible]ある男

とかくして旭年ゆく網代も
網代雪うしろの家へまとまり
隣橋北東に来ぬ網代雪
戸口から芦の浦もやみての月
此家も人の居られぬ月
上が義人ふと来りたきみぞれ
竹みのとくまる雪のうら雪
むつまじく竹煙りそうて雪村家

へつうつとと世界れり雪の家
里の竹も焼けきしも枝雪
賀年網ゆけて見るや橋のしも
雪新ふ書を入江の小舟なり
白子の子安菩年詣て
南拙云の内村さらに雪の日
きつ雪めけるもなる芹の書
乃馬とハ主芦ゆう尾村雪

まつとしの山ぶかく降る雪
をわけ道たどりかねつる人雪は山
風吹きぬ風吹出す雪の降り乱
れ芦辺舟雪をうれはひ搖ひ
伏るなく降るさゝのひや雪のうち
やあるて一枝ちりぬ降れ雪
雪はなれ世百日のおもひぬ袋この年
内紀を一年の内年ふる松の新

松は雪をて出ぬ降ぬ雪の新
雪の眺を休むと麦の畑田の孔
ふ紀源を持て蒼ふる雪乃里
大雪と成ふり降ぬ鶴のふ
未つゝきの一雪叫ぶ来れ雪
雪もやふつ先い陸茅吉
月きたて二日年新雪 佛
降て来て被年身乃竹の雪

接て

降て数尺の雪を積るの姿あり

昨路亭にて

ひく降るに雪ものとり庭の松

越后法寺にて

垣根にうゑ置る枳殻の見れば

冬枯淋し 脆堂

大雪の降とふうえす浦のさま

雨寅の冬にふるとしは雪を生て

細呂木の冬ゆきのふるとて

雪ちるや紙子とる小田の移

見る目より雪の形ひとを附ける

まれ今宵稲ほ年ふる雨れ

相の実れまれあり厚氷

五六日雪ゆ霰の洞乃魚

雪の末れ雪ふる年書ゆるゆ孔

雪月花の中にもきりぎりすの音
雪月の加茂にもたつ小家哉
ふるさとの梅にはとまり来る鶯
あすの夜は月も明らん雲れ梅
雲仙の高もはなれ雲と雲と
鍋汁や雪積れの月ハ恋
信濃路の雪ハ雪ハ雪ハ
うすく雪ハ雪ハ雪ハ出ぬ鉢叩

指さすは指の音丸弾たるか
すゝ掃やたゝて居ぬ地の磬
田の中や鶴つゝ折て年の磬
歌見えて山と見つゝ夕の雲
讃岐国寺を阪の山とゝ
をきゝて
竹年の高ハ折くゝも阪の山
大年や風情の出来る日暮方

折て来て竹て居る除夜の梅ひ

雜之部

梅高く房なる又蕾も美しく

陰ひくちる気色八尺を寸ぶ二株

あり高く見る日影ふこの山

追加

伊勢社玉月の頃の

梅花を対して感懷

をたふる故人言葉之

今なりとへ言ふとも

よもぎほえ待りて

伊勢社も梅ハ咲侍し梅のも

[illegible]

このころの好事のしれものを
其のまた一河の流をえ詳しく
あらそひをするとしまりなく人
此宗祇にふ筆も書写つゝ将
ゑりて夜白の姿つまりくやうには
御くにほれと見母ハ絶紀の露
信りにしとれわうしあな

なりけるを貞徳翁ハ自ら連歌
あまく誹諧の昔俳ゝ書
此風雅にたりつゝ世を継
おもせたる人は此世なる後の貞享
元禄の俳家ここにもあまたあら
さるんやともせむあまたありしまま
まとし自ら作の本序なりく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

緑水園蔵書

芭蕉翁
一代句集 俳諧袖珍鈔 懐中横本 前後十二冊 合巻八冊

[illegible]

蒼虬翁句集 全部 二冊
同 俳諧集 今 二冊

発句類題 一掬集

古今先哲の名句を撰出して
句集となす典書なり

初編二編三編 全十冊 出来
四編近刻 編々嗣出

弘化四年未正月

江戸日本橋一町目　須原屋茂兵衛

書　紀洲若山新通二丁目　帶屋伊兵衛

大坂　心斎橋助博労町角　河内屋茂兵衛

同　同　本町角　河内屋藤兵衛

京都寺町通五条上ル町　山城屋佐兵衛

林

同　二条通堺町西入町　林　芳兵衛

同　堀川通二条下ル町　越後屋治兵衛